園だより

令和7年5月27日



新潟市立結幼稚園

線路は続いて…それからどうなった?

園長 本多 郁代

5月1日、さくら組(年長)の子どもたちが荻川駅から電車に乗って、新津駅近くで開

催される一・六市に行ってきました。帰ってくるなり口々に「楽 しかった!」を連発する子どもたち。電車体験は大満足だったよ うです。その感動はすぐに遊びに反映され、幼稚園には線路が所 狭しと出来上がり、蒸気機関車も友達を乗せて走り出しました。

それを目にしたばら組(年中)さん、乗り物に興味のある子ど



もを中心にお部屋の中に線路が出来上がり、その後、ばら組(年中)からも線路を廊下へ つなげようと頑張ります。しかし、さくら組(年長)のようにサクサクと線路は延びませ ん。すると、それを見ていたさくら組(年長)の子どもが、「(線路づくりを)手伝おう か?」とばら網(年中)の子どもに声を掛け、線路はどんどん延びていきました。はじめ は、お部屋の外の右側に線路を延ばしたかったばら組(年中)のお友達でしたが、さくら 組(年長)のお友達が、「両方に延ばせばどっちにも行けるよ!」と提案し、線路は両方

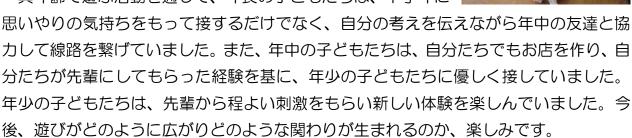
向に進んでいくこととなりました。

やがて、廊下やそれぞれのお部屋にはいろいろな駅ができ始め ました。神様駅では大きな鳥居をくぐったり、音楽駅では素適な 演奏家が楽しい音楽を聞かせてくれたりしました。ばら組のお部

屋にもアイスクリームやクレープを売

るお店が出来上がり、アイスクリームを買ったひよこ組(年少) のお友達が、うれしさのあまり園長室にアイスクリームを持っ てお知らせに来てくれました。

異年齢で遊ぶ活動を通して、年長の子どもたちは、下学年に



「異年齢保育で何が育つのか」を今後も明らかにしながら、保育を進めてまいります。